

JAPICとは

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（Japan Project-Industry Council：JAPIC）は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済・環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在 37 業種 205 社の企業、地方自治体、団体、NPO 等から構成され、年間延べ 1 万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。



JAPIC会長
宗岡 正二

Shoji Muneoka

新日鐵住金(株)
代表取締役会長

開設趣旨

世界は、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボーダレス化などにより、グローバルな大交流・大競争時代にシフトしています。

この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探求し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。

学生に期待するもの

講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心を持って、グローバル時代にチャレンジすることを期待します。

主催：神戸大学連携創造本部
サポート：神戸大学東京六甲クラブ

問い合わせ先

神戸大学研究推進部連携推進課
産学官連携グループ

連絡先電話番号 078-803-5427
E-mail ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp



世界に挑む
産業界・官界・政界トップリーダーによる



連続リレー講座 2015

科目名 社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)



基本
コンセプト

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?
学生は何を学び、何を身につけるべきか?

産業界・官界・政界のトップランナーがオムニバス形式で講義をします。今、企業でどんな人材が求められているのか?学生に何を身に付けてほしいのか?土曜の午後を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

開講日時 平成27年度前・後期 土曜日13:20~16:40(講義日は見開き面)

場所 鶴甲第1キャンパス K棟 K202教室(6/13はB110教室)

科目区分 教養原論(学部1年)／総合科目I(学部2年以上)



神戸大学

社会基礎学 平成27年度前期

第1回

4/18

(土)

【パネルディスカッション】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

◆講義概要◆

グローバル化にどのように対応するかは、世界に出ていくだけではなく、日本の国内で生活し続けるとしても、皆さんの極めて身近で大切な課題である。このリレー講義は、「社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)」と題して、産業界、官界、政界、学界等、様々な分野のトップランナーの講師が、自らの豊富な経験、知識を踏まえ、現在と将来を語り、学生と共に考えるものである。皆さん自身でグローバル化に対処する考え方を身に付ける一助としてもらいたい。

13:20～16:40

丸川 裕之

JAPIC専務理事・事務局長

◆プロフィール◆1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鉄(現 新日鐵住金)入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

コーディネーター

三和 正明

三精テクノロジーズ(株) 相談役

◆プロフィール◆1967年(株)住友銀行(現 三井住友銀行)入行。支店長、部長歴任後、1994年(株)日本総合研究所に。システム、コンサルティング部門担当の代表取締役を経て、2004年三精輸送機(株)(現 三精テクノロジーズ)に移籍。社長、会長を経て現在相談役。「POSITIVE JAPAN®」を主宰し、この国の魅力と真価を刈刈」にて発信中。

パネリスト

深沢 淳一

(株)読売新聞東京本社 ブランド企画部長

◆プロフィール◆1987年、読売新聞入社。主に経済部に所属し、産産省、財務省、外務省、総務省などの中央官庁や民間企業をカバー。2001年から04年までシンガポール特派員として東アジア経済を取材。経済部デスク、国際部デスクを経て2010年から13年までバンコク特派員、アジア総局長として東アジア情勢を取材。福岡市出身。座右の銘は「初心忘るべからず」。趣味は旅行と飲み歩き。

パネリスト

難波 ひとみ

JAPIC事業企画部主査

◆プロフィール◆1997年森ビル(株)入社、不動産開発部を経て、社長室にて都市の魅力づくりのための情報発信としてwebsiteや書籍を企画制作。2007年不動産投資ファンドに転職するもリーマンショックに遭い、再度転職。JAPICでは広報や人材育成、天然ガスインフラ、ミャンマーとの産業交流委員会の事務局運営を担当。2014年より現職。趣味: 料理、ヨガ、都市研究、特技: アラビア書道。

パネリスト

内田 一徳

神戸大学 理事 副学長

◆プロフィール◆1950年から京都市に在住。1980年農業工学博士課程修了。1977年京大農学部農業工学助手、1984年同助教授。1994年神戸大学に異動、3ヵ月後に阪神淡路大震災を経験。1996年教授に就任、2005年評議員、2009年農学研究科研究科長(農学部長)を経て、2013年から理事・副学長。趣味: ゴルフ・ワイン・蕎麦打ち。

パネリスト

第2回

4/25

(土)

日本の安全保障環境と防衛政策

◆講義概要◆

2013年12月に我が国最初の「国家安全保障戦略」とともに、新たな「防衛計画の大綱」が策定された。新興国の台頭により国家間のパワーバランスが変化する中、我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増している。これに対して、我が国の新しい安全保障・防衛政策はどう対応しようとしているのか。特別な軍事知識等は不要。時事問題を扱いながら分かり易く解説したい。

13:20～14:50

15:10～16:40

国の政策はどう形成されるのか

ーエネルギー・温暖化問題を例にー

◆講義概要◆原子力発電の問題、温暖化問題など、国全体あるいは世界全体で取り組まなければならない課題は山積している。こうした政策はどのようなプロセスとどのような仕組みで形成されて行くのか、具体的にこうした政策形成に携わった経験から、実態論としての政策意思決定プロセスを講義する。

澤 昭裕

21世紀政策研究所 研究主幹 (一財)アジア太平洋研究所 副所長

◆プロフィール◆経済産業省、東京大学を経て、21世紀政策研究所、アジア太平洋研究所など。大阪府出身。

日本の未来を切り拓く

～少子化・IT化・グローバル化と我が国の将来ビジョン～

◆講義概要◆少子高齢化による人口減少、ビッグデータをはじめとするIT分野の進展、待たなして進むグローバル化など、我が国は大きな課題を抱えているが、これらは新たな挑戦のチャンスでもある。我が国の将来を見据え、成長戦略を審美に実行・進化させていくことが不可欠。特に、2020年を節目に、働き方改革、IT政策、TPPなどに重点を置きつつ、大胆な改革を速やかに実行することが重要。こうした我が国の将来ビジョンを示す。

西村 康稔

内閣府副大臣 衆議院議員

◆プロフィール◆1962年兵庫県明石市生まれ。中学時代は神戸大学附属明石中に学ぶ。通商産業省(現 経済産業省)入省後、米国メリーランド大学院で国際政治・経済を学び卒業。通商産業省調査官を最後に退官。2003年、初当選。2009年自民党総裁選に立候補。2014年、5期目の当選。外務大臣政務官、克己調副会長、選対事務局長、改革実行本部事務局長等を歴任。現在、内閣府副大臣として経済再生・経済財政政策・社会保障と税一体改革・健康医療戦略・TPP・PFI・NPO等を担当。趣味: 秘境巡り、映画、俳句、茶道。学生時代: 陸上、野球、ボクシングなどで活躍。

15:10～16:40

第3回

5/16

(土)

わが国の国土政策の現状と将来

◆講義概要◆

災害が激甚化し、多発化している状況や過去整備してきた社会資本の老朽化が指摘されている状況を踏まえ、国土交通省の進める業務の紹介を通じ、今後の人材に求める資質とは何かを明らかにし、大学において学ぶべき、そして次世代のリーダーに必須となる素養について論じる。

13:20～14:50

森 昌文

国土交通省 近畿地方整備局長

◆プロフィール◆1981年建設省(現 国土交通省)に入省。道路局、北陸・東北・九州地方整備局を経て、1998年アメリカ合衆国連邦運輸省、その後国土交通省国総研ITS 研究室、道路局高速道路課長、企画課長、大臣官房技術審議官を経て、現在近畿地方整備局長を務める。奈良県出身。博士(工学)。

成長産業としての医療

◆講義概要◆社会インフラとしてすべての人に身近な医療は、しかし昨今では社会保障制度改革の背景として国民負担の増大という切り口で語られることが多い。ここでは医療の産業としての側面に焦点を当て、海外展開を含め医療の今後について考えてみたい。

13:20～14:50

吉田 寛

㈱大林組 土木本部 営業推進部 副部長 JAPIC 事業企画部次長(出向)

◆プロフィール◆1990年㈱大林組入社。経理・財務・購買、企画等の各部門を経て、医療福祉分野に特化したコンサルティング、建築営業を担当。2013年より現職。東京都出身。中小企業診断士。空手初段。最近はゴルフを趣味と言えるように努力中。

15:10～16:40

欧州における地域統合(EU)の流れとアジアとの比較

◆講義概要◆経済産業省で地球環境問題を担当していた際(地球温暖化対策室長、大臣官房審議官)のEUとの交渉経験および外務省・欧州連合日本政府代表部参事官としてブラッセルに赴任した経験をもとに、EUの歴史・特徴と今後の展望について講義するとともに、アジア(特に東南アジア)における地域統合の動きとの比較にも触れる。

関 総一郎

経済産業省 近畿経済産業局長

◆プロフィール◆1983年通商産業省(現経済産業省)入省。2001年産業技術環境局地球環境対策室長、03年外務省・欧州連合日本政府代表部参事官、06年商務情報政策局サービス政策課長、11年大臣官房審議官(環境問題担当)、12年総務省情報通信国際戦略局次長などを経て14年7月から現職。千葉県出身。

金融の役割と環境

◆講義概要◆身近な存在だが目に見えない存在一金融。名の通り「金の融通」が基本。世界で、多くの活動に関わり、世界の動きに影響を受ける。金融の役割の変化、金融をとりまく最近の環境について概説する。

中川 順子

野村ホールディングス(株) 執行役員 グループ・インターナル・オーディット担当

◆プロフィール◆1988年野村證券入社。奈良支店、人事部、投資銀行部門、財務部門を経験し2004年退社。2008年再入社、子会社の野村ヘルスケア・サポート&アドバイザリー社長。2010年財務部門に異動。2011年野村ホールディングス執行役・CFO、2013年執行役員(グループ・インターナル・オーディット担当)、現在に至る。

13:20～14:50

15:10～16:40

産業の近現代史

◆講義概要◆第二次世界大戦終戦から70年、戦後復興、高度成長、バブル、失われた20年そして現在に至る日本の近現代史を自動車、鉄鋼等産業からの視点を中心に概説する。加えて、現在における日本企業の強み・弱み・今後のあるべき姿を、国際競争力の視点を踏まえたうえで企業人の立場から論じる。

門脇 直哉

JAPIC常務理事

◆プロフィール◆1984年新日本製鐵(株)(現新日鐵住金)入社。経理、厚板・建材営業、プロジェクト開発各部門を経て2012年度よりJAPIC。政・官・財・学・マスコミ・NGO等幅広く交流。広島県出身。趣味: テニス、ゴルフ、読書。

15:10～16:40

「次の、日本。」政治の責任と政策

◆講義概要◆グローバルかつ長期的視点からわが国の政治課題を直視し、日本の新たなフロンティア、急ぐべき政策を四半世紀の政治経験をもとに考える。

直嶋 正行

参議院議員 元経済産業大臣

◆プロフィール◆1971年トヨタ自動車販売(株)(現トヨタ自動車(株))入社。自動車総連副会長を経て1992年参議院議員初当選(現在4期)。民主党参議院幹事長、政調会長等を歴任。政権交代後の2009年経済産業大臣として初入閣。現在、民主党「両院議員総会長」、「エネルギー環境総合調査会長」。大阪府池田市出身。趣味: 読書、水泳。座右の名: 初心忘るべからず。

★本学出身者

15:10～16:40

ベンチャー起業の海外進出支援

◆講義概要◆「日本では、なぜ、米国のようにベンチャー起業家が出てこないのか、あるいは、なぜベンチャー企業が育たないのか」という問いに対し、エンジェル投資家制度の不備等、様々な意見がある。ベンチャー企業を支援すると、規制や既存大手企業のマーケットでの暗黙的排他的取引慣行等で、ベンチャー企業の成長が阻害されるケースが多く、海外展開の方が即効的であることもある。学生の皆さんとベンチャーの成長について考えたい。

前川 直和

M&Company(株) 代表取締役社長

◆プロフィール◆1987年日本生命保険相互会社入社。主計部、国際業務部を経てニューヨーク勤務。日本生命の国際戦略を立案、執行。その後、外資系コンサルティング業界において、金融機関の戦略策定、執行を支援。現在は、2015年10月にベンチャー企業育成等、政策課題解決のコンサルティング会社M&Company株式会社を設立し、現在に至る。大阪府出身。

★本学出身者

13:20～14:50

小高 裕之

神戸大学 連携創造本部 教授

◆プロフィール◆1982年武田薬品工業(株)入社。生活習慣病治療薬の研究開発に従事。2006年より創業研究所長、医薬研究本部長・執行役員を務め、研究活動のグローバル化を推進。米、英およびシンガポールに枝研究所を設立。この間、日本バイオインタストリー協会や経済同友会等に参加。2014年から現職。埼玉県出身。学生時代はラグビー部。

★本学教員

最終日は講義後試験を実施
(15:10～16:40)

社会基礎学 平成27年度後期

第1回

10/10

(土)

【パネルディスカッション】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

◆講義概要◆日々劇的に変化する世界。グローバル化とは、「大交流」、「大競争」そして「大混沌」であり、日本は今、その変動のご真ん中にいる。このリレー講義は、「社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)」として、産官学のトップランナーが、豊富な経験、知識を踏まえ、現在と将来を語ることを目的とする。パネルディスカッションでは、学期冒頭の授業として、トップランナーである講師が、グローバル化について学生の皆さんと共に考える。

13:20～16:40

門脇 直哉

JAPIC専務理事・事務局長
◆プロフィール◆1984年新日本製鐵㈱(現新日鐵住金㈱)入社。経理、厚板・建材営業、プロジェクト開発各部門を経て2012年度よりJAPIC。政・官・財・学・マスコミ・N G O等幅広く交流。広島県出身。趣味：テニス、ゴルフ、読書。

進藤 秀夫

東北大学 理事 産学連携担当
◆プロフィール◆1986年通商産業省入省。(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構ワシントン事務所長、経済産業省産業再生課長、紙業生活文化用品課長、大学連携推進課長、(独)産業技術総合研究所企画副本部長等を経て、東北大学へ出向中。

コーディネーター
田邊 弘幸
◆プロフィール◆1968年日商岩井㈱入社。日商岩井・双日を通して、エネルギー金属資源部門長・専務執行役員、代表取締役副社長・米州総支配人などを歴任、2011年双日(株)顧問に就任。1998年ハーバード・ビジネススクールAMP修了。日本創生会委員。三重県伊勢市出身。趣味：音楽鑑賞。室内楽を好む。最近なぜか男声合唱団に入団、呻吟を重ねながらもその魅力に取りつかれつつある。★本学出身者

柏倉 志乃

大成建設㈱ 技術センター 技術企画部 課長代理
◆プロフィール◆1992年大成建設(株)入社。土木設計部にてゴルフ場の設計、国際支店にて海外工事の入札対応、人事部ダイバーシティ推進室を経て、JAPICに3年間出向。現在は大成建設(株)技術センターにてオープンイノベーションを担当。神奈川県出身。趣味：シャンソン、ピアノ演奏。学生時代：青森でスキー三昧。

パネリスト
小川 真人
◆プロフィール◆仙台市出身。東京での学生生活後1985年神戸大学工学部助手。1992年IBM T.J.Watson 研究所客員研究員2004年神戸大学 工学部教授、2011年同大 大学院工学研究科長、工学部長、2015年同大 理事・副学長。趣味：将棋囲碁鑑賞・山歩き・ワイン。★本学教員

第2回

10/17

(土)

エネルギー政策が大事な理由

◆講義概要◆エネルギー自給率に乏しい日本では、エネルギー政策が国民生活や産業活動に大きく影響する。そこで、エネルギー政策の重要性について、東日本大震災以降のエネルギー問題の変化、資源開発をめぐる国際動向や水素エネルギー活用等の技術開発を踏まえつつ、足下から中長期のエネルギー政策のあり方を多角的に考える上での基礎知識を講義する。

13:20～14:50

15:10～16:40

藤原 幸則

(公社)関西経済連合会 理事
◆プロフィール◆1980年㈱三菱総合研究所入所、マクロ計量経済モデル分析に従事。その後、大阪大学大学院(国際法、法学修士)を経て、1986年関西経済連合会事務局入局。同会では、エネルギー・環境、科学技術、経済財政、企業経営等に関する調査研究や政策提言とりまとめに従事、2010年より理事に就任。地球温暖化対策の国連会議COP1に2回参加。出身は大阪府。趣味は旅行・絵画鑑賞。

第3回

10/24

(土)

グローバル経営人材を目指す
皆さんが今なすべき事

◆講義概要◆マスコミを賑わすグローバル人材育成論には、知見不足・思考停止を露呈した無意味でミスリーディングなものが大半である。ビジネスとアカデミックの双方を体験した「教鞭を取る実務家」の視点から、グローバル経営人材を目指すためには、在学中に何をすべきか、何をしてはならないかを論じたい。若者の強みは、1)世の中が変化すること、2)持ち時間に恵まれていること、3)理論の習得、にある。

13:20～14:50

15:10～16:40

大住 敏之

㈱アクセスコンサルティング 経営顧問 立命館アジア太平洋大学客員教授
◆プロフィール◆故郷は但馬国。六甲台では産業組織論専攻。川崎製鉄(現JFEスティール)入社。MBAホルダー第1号として海外ビジネス展開の切り込み隊長と官兵衛役を務めてきた。会社卒業後は社外役員・顧問の傍ら青学理工学部大学院の兼任講師、立命館アジア太平洋大学の客員教授として経営学を論じている。講義のモットーは、クルト・レヴィンの至言「良い理論ほど実践的なものはない」。★本学出身者

第4回

11/7

(土)

常勝日本の主役たれ

◆講義概要◆今、世界の中において日本の立ち位置を高いレベルに取り戻さなければならない。大競争社会を勝ち抜くための日本のあるべき姿とは。国際競争力ナショナルブランドの日本をオールジャパンで取り戻そう。そのためには今、我々は何を理解し、何を学び、如何に行動すべきか。学生の皆様との議論を通して、グローバルな競争を勝ち抜くための必要な要素を共に考え、そして明確化していく。

13:20～14:50

15:10～16:40

関 芳弘

経済産業大臣政務官 衆議院議員
◆プロフィール◆大学時代に松下政経塾合格。平成元年、株式会社住友銀行(現三井住友銀行)入行。平成17年の小泉総理の郵政解散において公募にて兵庫3区に立候補、候補者決定の連絡を受けた同日に退職届を提出、同選挙区では18年ぶりに自民党議席を獲得、経験を生かし、経済分野、財務金融分野に力を注ぐ、副幹事長として2年間連選にも携わり現在は経済産業大臣政務官。趣味は卓球、囲碁、読書。

震災復興の現状と課題

◆講義概要◆復興から復興へ、将来にわたり持続可能なまちづくりに向けた釜石市の取り組みを語る。

野田 武則

釜石市長
◆プロフィール◆学校法人野田学園甲東幼稚園園長を経て、2003年に岩手県議会議員に初当選。2007年から現職。震災以降、釜石市の復興・復興にあたるとともに、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会の会長として被災した岩手県沿岸地域全体の復興に向けて活動中。趣味：合気道、居合道、愛犬との散歩。

日本の農林水産業

◆講義概要◆TPP、FTAの議論が進む中、日本の一次産業はいかにあるべきか?世界の例を見ながら一次産業の成長戦略を考える。

末松 広行

農林水産省 関東農政局長
◆プロフィール◆1983年農林水産省入省。小泉官邸で内閣参事官、農林水産省では環境政策課長、食料安全保障課長、政策課長、林野庁林政部長等を歴任し現職。地方勤務は長崎県諫早市。著書は「食料自給率の「なぜ?」」(扶桑社2008年)など多数。食育、バイオマス・ニッポン、農産物輸出を提唱。埼玉県出身。中高の剣道部から大学時代は音楽に転向。

現代の金融システム

◆講義概要◆金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもある。講義ではバランスの取れた見方を提示してみたい。

吉村 隆

ゴールドマン・サックス証券㈱ コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター
◆プロフィール◆1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会室企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券(株)の現職に就任。日本創生委員。趣味：旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘：天網恢恢疎にして漏らさず。

都市開発の海外輸出

◆講義概要◆我が国では、新規のインフラ整備の需要が伸び悩んでいる一方、東南アジア等の新興国では、人口増加と都市の成長により爆発的なインフラ需要が見込まれており、我が国も日本の優れた都市開発の技術を官民共同で海外に売り込む政策を推進しています。海外で日本の都市開発を売り込むことの意味を理解するとともに、現地で協働することを通じて得た、私なりの「グローバル人材に求められる素養」についての私見を伝える。

石川 貴之

㈱日建設計総合研究所 理事 上席研究員
◆プロフィール◆1987年㈱日建設計入社。京セラドーム周辺、なんばパークス開発等の大規模都市開発業務に従事。2008年より㈱日建設計総合研究所にて東アジアを中心に低炭素都市業務に従事。近年は都市開発の海外展開・インフラシステム輸出の業務に関わることが多く、「日本の得意技とは何か」を強く意識する日々を過ごす。山口県出身。バスケ一色の学生時代。現在は週一のジム通いで体型維持。

総括

◆講義概要◆連続講義を受講した聴講者一人ひとりが、グローバル化をどのように捉え、どのような努力を今後していくべきか、また10年から20年後の将来(社会、自分)はどうなっているか、全員と具体的にディスカッションしていく。このことを通じて、自身のグローバル人材の在り方を再確認して貰いたい。

丸川 裕之

JAPIC専務理事・事務局長
◆プロフィール◆1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鉄(現 新日鐵住金)入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

世界政治と経済の様相が益々流動化する中で、日本企業の国際戦略は?

◆講義概要◆日本が失われた20年を通して呻吟している間に、世界の政治・経済状況は大きく様変わりした。少子高齢化を迎え、大きく経済成長が期待できない日本はどの様にしてグローバル化に立ち向かっていくべきか(商社の具体的戦略なども交えながら議論する)。又日本国内の経済を衰退させない為のキーは何であるのか議論を進めたい。

田邊 弘幸

双日㈱ 顧問 神戸大学東京六甲クラブ 副理事長
◆プロフィール◆1968年日商岩井㈱入社。日商岩井・双日を通して、エネルギー金属資源部門長・専務執行役員、代表取締役副社長・米州総支配人などを歴任、2011年双日(株)顧問に就任。1998年ハーバード・ビジネススクールAMP修了。日本創生会委員。三重県伊勢市出身。趣味：音楽鑑賞。室内楽を好む。最近なぜか男声合唱団に入団、呻吟を重ねながらもその魅力に取りつかれつつある。★本学出身者

我が国の成長戦略における関西の実践行動

◆講義概要◆アベノミクスの①金融政策②財政政策③成長戦略は3本が機動的に連動して効果を生むとされる。特に3本目の矢は民間の要素が大きいが、東京一極集中が進む中での地方創生、少子高齢化における女性の社会進出など相矛盾する課題が山積されている。このような状況で関西がいかに自らを活性化させつつ、我が国の成長に寄与していくための実践行動と覚悟に踏み込んでみたい。

木村 泰之

株大林組 建築事業部 企画部 部長 (一財)アジア太平洋研究所 広報部長(出向)
◆プロフィール◆札幌市出身。1979年株式会社大林組入社経理部、人事部、広報室、営業部門等を経て2008年アジア太平洋研究所推進協議会に出向後、現在に至る。

産業の近・現代史概論そして今日的課題

◆講義概要◆鉄鋼・自動車・電機を軸に明治以降の産業の芽生え、戦後の発展について整理し、日本経済の足跡をたどる。その上で、アベノミクス3年目を迎えた今日、日本の企業(特に製造業)が抱える経営課題と展望について論述する。

武田 厚

日鉄住金鋼板㈱ 取締役相談役
◆プロフィール◆1970年新日鐵㈱入社。西ドイツ(当時)ルール大学に留学。建材営業部長、薄板営業部長、取締役大阪支店長を経て、2006年日鉄鋼板㈱社長、2006年住金建材との事業統合により日鉄住金鋼板㈱社長。2014年7月から同社取締役相談役。東京都出身。中学から社会人(30歳)までサッカー部所属。現在は(社)日本女子サッカーリーグ理事。

西原 圭志

神戸大学 連携創造本部 准教授
◆プロフィール◆工学博士取得後、ポスドク研究員を経て1998年山口大学 地域共同研究開発センター 助手。2000年 九州大学 先端科学技術共同研究センター 助手。2004年 長崎大学 知的財産本部 助教授。2006年 同 産学官連携機構 知的財産部長。2007年から現職。趣味は読書、軽登山・山歩き。学生時代はハンドボール部、大型バイクでのツーリング。★本学教員

最終日は講義後試験を実施
(15:10～16:40)

国際文化学部4回生

講義では大学外の大人の方々にお話していただけるので刺激があります。大学の教授と、企業人・政治家・技術者の考え方の違いを知ることだけでも、得る事が多くあります。学校では“なぜ?”を純粋に追求しますが、企業に入れば多くの場合“どうやって”“利益を出すか”を追求していきます。このように、目的の根幹が違うことを知るだけでも、一気に視野が広がり、“自分はどんな人間になりたいか?”を考えることになると思います。それこそが、グローバル人材になっていく過程だったのかもしれないと、受け終わって感じています。グローバル人材の定義はあまりに多様で複雑ですが、普段話さない人と話したりする機会が多いほど、近づける人物像だと思うので、この授業はいい機会になるのではないのでしょうか。

発達科学部1回生

私達の世界は日々変化している。日本においては人口構造の変化に伴う産業構造の変化と社会構造の変化について考えていかなければならない。また産業においては、海外との間でどのように発展・変容してきたか、していくのか、グローバルに考えていかなければならない。また社会で何が必要とされており、学生はどのような意識を持ち、何を考え学んでいかなければならないのか、中期的、長期的な視点で考えていかなければならない。本講義ではそのような多様な視点を持つことができる。特に重要であるかと考えられる13分野から、産業界・官界・政界のトップリーダーを招いた貴重な講義が聞ける。土曜開講ということで、受講を迷う学生もいましたが、皆が高い意識で挑み、同じ学生という立場から、様々な意見を聞くことができ刺激をもらうことができる。講義される先生から直接質疑応答を受けていただけるのは何よりも貴重な経験になるだろう。各分野に対して、講義を受けた中で出てきた疑問や前々から持っていた疑問を、直接話をする事で実感できるだろう。土曜の2コマを投資してみてはいかがでしょうか？

法学部1回生

普段の講義とは違い、毎回様々な先生が来られ、多岐にわたってお話をされるのでとても面白い講義です。教養原論では聞くことのできない「グローバル人材」にフォーカスしたところが特にオススメです。「グローバル人材」というともはや聞き飽きてきた言葉かもしれませんが、先生方のお話では、自身の経験や業界のトップからの観点として、大学生の今聞いていることがたくさんありました。教養なので、高校までに学んだことも多いですが、そこからものの考え方・捉え方を学べ、物事の多様性・多面性に気づきを得る事ができました。また、先生方のパネルディスカッションも、大学の中であまり見ることができないのでオススメです。

経営学部1回生

社会基礎学は日本の最前線で活躍している方々がリレー形式で講義してくださる、特殊な形式の授業です。講義では日本と世界で現在起こっている様々な事象や問題を取り扱います。また、講師として来ていただいている方々と質問を通じて意見のやり取りをする機会が与えられることも大きな特徴です。講義を通じて現代社会に関する様々な知見が得られるとともに、自分で考える力を磨き、自分なりの意見を持つことができるようになります。このような能力は、今後の大学における教養や分野によっては専門の授業で、また、将来あなたが社会で活躍するときに必ず役立つでしょう。

経済学部1回生

毎回違う分野の話が聞けるので、自分の視野が広がります。今まで興味のなかった分野も、講義をきいて興味を持つようになりました。様々な分野でグローバル化が進み、自分も決して無関係ではないのだと実感でき、自分の考えを深めることができる講義だと思います。

経済学部1回生

もしこの講義を受講するかどうか悩んでいる人がいるならば、受講することをお奨めします。「グローバル」と聞いてもあいまいにしか考えることのできなかった私が、この授業で他の学生や色々な視点からの「グローバル」に刺激をうけることができたからです。

経済学部4回生

就職活動を控えた人にとって、各分野の最前線で働いている人の話を聞くことや、個人的な質問を聞いてもらえる機会は貴重だし、1、2回生のうちから就活を意識するのは早いと思うが、1、2回生が参加する価値はあると思う。

農学研究科1回生

この講義では現在各界で何が起こっているか、私たちに何が求められているかを各界のトップリーダーから直接教えてもらうことができる。さらに、講義の中には議論や質問の時間も設けられており、どんなことでも自由に発言することができる。この講義では普段の一方通行の講義とは一味違った経験が得られるだろう。また、各界のトップリーダーが休日返上で日本各地から神戸に来ていただいている。そのため、土曜日に開講されるが、是非受講してほしい。

農学研究科1回生

近年何かと目にする「グローバル化」。そもそもグローバル化とは何か？我々は何ができ、何をしなくてはいけないのか？まさにグローバル社会の先頭にいる各分野の方々がその疑問に答えてくれる講義です。文系の人はもちろん、理系の人にとっても、グローバル社会においてどのような技術が求められるのか、自分の研究分野はどのように活かすことができるのかなど、多面的に考える良い機会となるのではないのでしょうか。